



いとう ひろよし
伊藤 廣好 議員

高齢者福祉の更なる充実を

耳に関する講座や相談会を今後検討する



100歳めざして元気に体操（福祉避難所として）

【質問】 人生100年時代の長寿社会、次の4点の政策提言をします。①耳の衰え予防や早期発見のため、病院、補聴器販売店などと連携して講座、相談、検査の実施を②80歳未満で運転免許返納者へのタクシー券交付・シニアカー購入助成を③高齢者世帯の見守り支援の充実として民間警備会社希望者への機器費等助成

を④民間企業と連携した高齢者向け集合住宅建設など、今後検討する考えはないか伺います。

【町長】 ①耳の聞こえの不調は健康寿命に影響すると言われており、耳の健康や不調に関する講座や相談会を今後検討します。②運転免許を返納した80歳未満の高齢者へのタクシー券・シニアカー購入

きめ細やかな 支障箇所は降雪前に 点検している

【質問】 次の4点について質問します。①降雪前に除雪路線の支障木伐採など事前点検を②除雪車による玄関除雪での配慮を③県道・町道除雪の連携によるワダチ解消や路肩排雪を④西堀地内の流雪溝整備計画はどうなったのか、など今後検討する考えはないか伺います。



町民の暮らしのため稼働するロータリー除雪車

【町長】 ①除排雪路線の事前点検を行い対策を講じておりますが、昨年度のような短期間の大雪の場合、発生後の対応になる場合もあります。②限られた作業時間では困難であります。③県と情報の共有はしているが、県道の路肩や消雪道路に溜まった雪を町の除雪車で

在、作業時間の捻出等問題が多くあり、県での排雪を要望する。④平成16年度頃に西堀町内会と検討の結果、維持管理費の負担や使用時間の問題で断念したと記憶しています。大堰からは水量不足が懸念、小国川からのポンプ揚水は電気料等負担など課題が多くあり、整備は難しいと考えます。



やくわ ふとし
八織 太 議員

先進的少数社会の理念を問う

人口減少の状況を踏まえ



未来を担う元気な子供たち

【質問】 日本に限らず国際社会の大きな課題となってきた少子化、人口減少に対しては、これまで国や県も地方創生をはじめ様々な取り組みを実施しておりますが、東京への一極集中と若者の大都市への人口流出は止まることなく、地方の自治体運営、特に山間部や小規模

自治体にとっては、将来に向けて持続可能な町づくりの大きな課題となっています。第7次舟形町総合発展計画の冒頭に掲げた、「先進的少数社会」の実現に向けて実践的な取り組みの柱となるものはどんなものか。

①安心して子供を産み育てられる環境づくり。
②地域の強みを生かした農林水産業の振興。
③安心して暮らせる住環境の整備。

【町長】 人口が減少する中において、過疎地域の人口増はそう簡単ではない状況を踏まえ、町総合発展計画の理念として6本の柱と7つの基本目標掲げ施策を展開しています。

①出合い・結婚・出産・子育ての各ライフステージにおいて切れ目のない支援を行っておりま。特に保育保護者の負担軽減策として、「のびのびサポート給付金事業」や、3歳児以上の副食費の無償化、就学後はICT支援員の派遣や指導主幹を独自に配置するなど力を注いでおります。
②町独自の農業ビジネスを策定し、ねぎの園芸団地化を目指した機械導入への補助率アップ。また、過疎化・高齢化による生産構造の脆弱化に対処するため、生産基盤整備への取組を加速させ、今後も儲かる農業の推進を図ってまいります。
③移住定住対策として、平成24年度からこれまで

10名の地域おこし協力隊員を受け入れる一方、小中高生に対しては地域の職業や活動を体験する機会を設け、将来も定住地してもらえよう促しています。また、雪対策について

は、緊急時の対応が困難な生活道路について小型ロータリー除雪車2台を新たに配備し、町道と同等の除雪路線としました。今後も安心して暮らせる住環境の整備を図ってまいります。



出動態勢は万全